

横浜港から横浜の歴史をたどる

日 時：4月17日（土）9:00～9:15 集合

コース：JR 桜木町駅（WC）→新市庁舎→日本丸→ぷかりさん橋（WC）→新港埠頭→赤レンガ倉庫（WC）→象の鼻テラス（WC）→大栈橋→山下公園（WC）→神奈川県本庁舎→横浜公園（WC）→旧市庁舎 解散：関内駅 [徒歩約6km]

No	見 所	由 来 ・ 史 跡
1	横浜市新市庁舎	8代目、令和2年(2020)6月移転。地下2階地上32階建て、高さ155m、総事業費は750億円超。1～3階には、吹き抜け構造の広場や物販、飲食店。
2	日本丸	昭和5年(1930)に建造された練習帆船。約54年間活躍し、地球を45.4周する距離(延べ183万km)を航海し、11,500名もの実習生を育てました。昭和60年(1985)より、みなとみらい21地区の石造りドックに保存し、一般公開をしています。
3	ぷかりさん橋	平成3年(1991)オープン。パシフィコ横浜の海の玄関口です。横浜駅東口、山下公園行きの定期航路と横浜港内遊覧船が発着しています。
4	新港埠頭（ハンマーヘッドクレーン）	客船ターミナルと商業施設、ホテルが融合した複合施設「横浜ハンマーヘッド」が、令和元年(2019)オープン。ハンマーヘッドクレーンは大正3年(1914)設置。はしけや貨物船が着岸して貨物の積み降ろしを行うための港湾荷役専用クレーンで高さ約30m、つり上げ能力は50t。
5	赤レンガ倉庫	2号館は明治44年(1911)、1号館は大正2年(1913)竣工。保税倉庫として作られた。日本最初の荷物用エレベーターやスプリンクラー、防火扉などを備えた最新鋭の倉庫でした。平成14年(2002)に1号館はホールや展示スペースを備えた文化施設、2号館はレストランやショップなどが揃った商業施設として復活。
6	象の鼻テラス	開港150周年事業として、平成21年(2009)に開館しました。横浜港発祥の地を、横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間として整備した象の鼻パーク内の文化観光交流拠点です。《時をかける象（ペリー）》椿昇作など展示。
7	大栈橋	ペリー提督の黒船来航によって、安政6年(1859)に開港した横浜港。波止場「象の鼻」に発する現「大さん橋国際客船ターミナル」は、7代目になります。平成14年(2002)完成。横浜市中区海岸通1丁目1番地である横浜の「原点」です。
8	山下公園	昭和5年(1930)に開園。山下公園の造成には関東大震災で生じた大量の瓦礫が用いられている。長さ800mにおよぶ海辺の広大なスペースを、港湾設備ではなく市民の憩いのために開放したことは、きわめて画期的なことでした。
9	神奈川県本庁舎	「キングの塔」の愛称で親しまれている神奈川県庁本庁舎は、国指定重要文化財。昭和3年(1928)建築、鉄骨鉄筋コンクリート造5階(塔屋9階)建て、軒高22.64m 塔高48.60m。
10	横浜公園	面積は約63,800m <sup>2</sup> 。この場所には港崎遊郭があった。しかし慶応2年(1866)の大火によって焼失、明治8年(1875)、在留外国人の生活環境改善を求めた条約に基づき、公園が建設された。
11	横浜市旧市庁舎	7代目市庁舎(1959～2020年)。今後の活用計画は、村野藤吾が設計した行政棟は、ホテルとして保存活用する。市会棟のある場所には、オフィス、大学、ライブ中継が楽しめる施設など地上30階(高さ約161m)の棟を新設予定。

&lt;次回案内&gt;

瀬谷オープンガーデン花巡り（ローズ編）（約6km）

日時：令和3年5月15日（土） 相鉄瀬谷駅北口広場集合 9時～15分受付

**会員募集中！**

\*問い合わせ先\* せや・ガイドの会 竹見（☎090-3900-6469）まで。